

# 深イ～話！

No.79

——中井俊巳著『読むだけで「人生がうまくいく」48の物語』より——

寝たきりで首も動かさない男性が病室に運びこまれたとき、もうひとりの患者が窓際のベッドに横たわっていました。

お互いに親しくなると、窓際の患者は窓から外をながめて、外の世界についてくわしい話をしました。

「今日はいい天気ですよー。青空にぽっかり雲が浮かんでいます。向かいにある公園の桜が咲き始めたところですよ」

別の日には、

「今日は風が強い日ですから、木の葉が揺れて、まるでダンスをおどっているですよー」

などと、寝たきりで首さえ動かさない彼に 語って聞かせてあげたのです。

彼は窓際の男性が語るその光景を想像することで、毎日毎日、心が慰められました。

そして、自分も外の世界が見えるように 早く病気を治そうと思うのです。

しばらくして、窓際の男性は退院することになりました。もうひとりの男性は喜びました。

「やった。これで、自分が外の世界を見ることができる。これからは、自分が窓の外の世界を見て新入りの患者に話して聞かせてやろう」

看護師にベッドを窓際に移すように頼むと、すぐに聞き入れてくれました。

しかし心躍らせて窓の外に目をやった彼は、愕然としました。窓はコンクリートの壁に面しており、外の世界など何も見えなかったのです。

それから彼は考えます。あの窓際の男性は、いったい何を見ていたのでしょうか。彼の目が見ていたのは灰色の壁でした。

しかし想像の力で、その向こうにあるものを見ようとしていたのです。そして、ただ天井を見ることしかできず、いつも辛そうにしているルームメートのために、自分の思い描いた壁の向こうの世界を話して聞かせてくれていたのです。

同じ壁を見て、ある人はその壁だけを見ます。別の人はその先にある「希望」を見ます。

状況は同じであっても、見方によって見えるものは違います。辛い困難な状況にいるとき、物事の暗い面だけを見てしまいがちです。しかし、希望をもって、少し前向きに、少し積極的な見方をすることによって、明るい局面を、私たちは見ることができるのです。

そして、見えてきた希望を、まわりの人にも語り、沈んでいる人を元気づけてあげることもできるでしょう。

壁の向こうにも、雲の上にも、光は輝いています。暗い夜の先には、明るい朝が待っています。希望はいつでも、あるのです。

